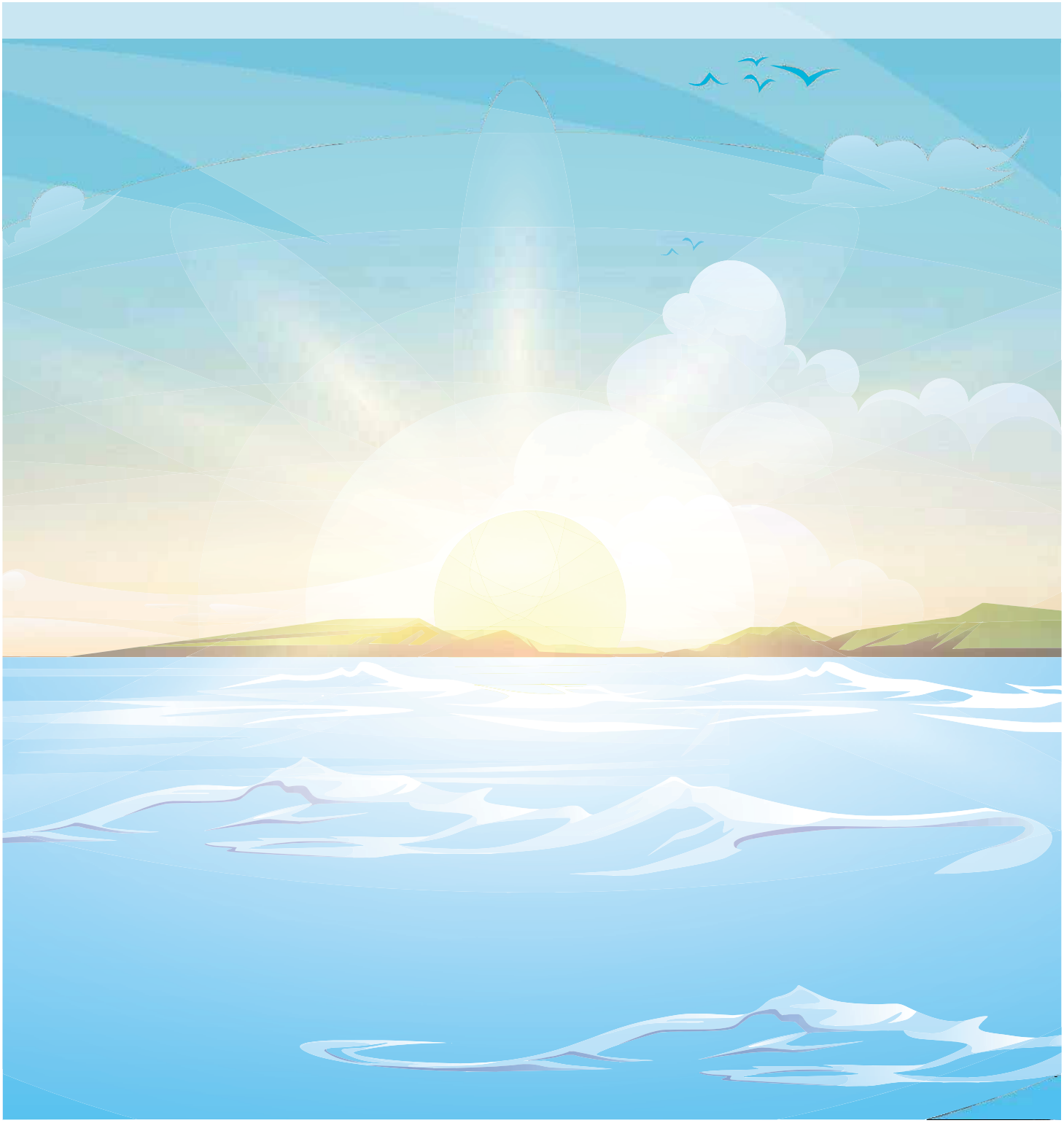
参考資料



資料１　八丈分教室モデル事業に係るアンケート調査

（１）調査の目的

八丈分教室及び八丈高等学校の生徒、保護者並びに教職員を対象にアンケート調査を行い、八丈分教室設置における成果と課題等を明らかにすることで、八丈分教室モデル事業検証の判断材料とする。

（２）調査概要

ア　調査対象・回答状況

対象者	対象者数	回答者数	回答率
Ⅰ　八丈分教室生徒	7 人	7 人	100%
Ⅱ　八丈分教室生徒保護者	7 人	6 人	86%
Ⅲ　八丈分教室教員	7 人	7 人	100%
Ⅳ　八丈高等学校（全日制）生徒	132 人	108 人	82%
Ⅴ　八丈高等学校（全日制）生徒保護者	120 人	70 人	58%
Ⅵ　八丈高等学校教員	41 人	40 人	98%
Ⅶ　八丈高等学校経営企画室職員 （八丈分教室経営企画室支援員を含む。）	11 人	11 人	100%
合　計	**325 人**	**249 人**	**77%**

イ　実施時期

令和５年６月～７月

ウ　調査の方法

Microsoft Forms を利用した Web アンケート形式

八丈分教室生徒へは、アンケート用紙を用い、教員付添いにより実施

エ　調査の視点

①　八丈分教室での学習

八丈分教室での学習は生徒の満足度を高めたか。保護者の負担軽減につながったか。

②　八丈高等学校との交流・連携

八丈分教室と八丈高等学校の生徒が、同じ場所で共に学ぶことで、同世代の生徒とのつながりを強めることができたか。

③　理解啓発の促進

八丈分教室の設置が、島内での障害者への理解促進につながったか。

④　八丈分教室の魅力向上

３年間のモデル事業を通じ、八丈分教室の認知度が上がったか。

⑤　島内企業等との連携

就業体験や産業現場等における実習を通じ、生徒の進路先の拡大につながったか。

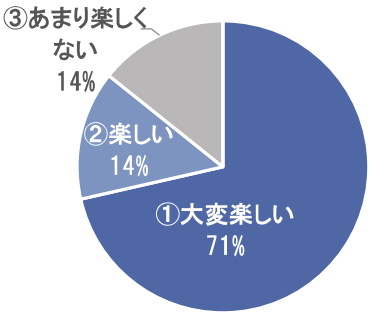
オ　主な意見について

一部抜粋し語尾を修正しているが、基本的に原文のまま掲載

（3）調査の結果

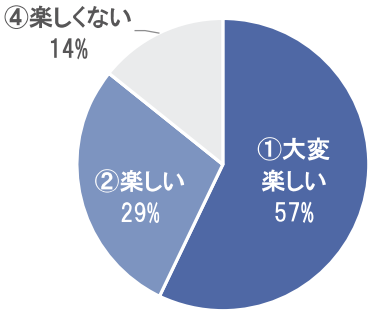
Ⅰ　八丈分教室生徒アンケート調査結果（回答７人）

問１　八丈分教室の勉強は楽しいですか。



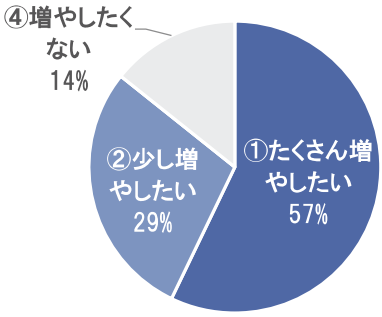
①大変楽しい	５人	71%
②楽しい	１人	14%
③あまり楽しくない	１人	14%
④楽しくない	０人	0%

問２　八丈高等学校の生徒と一緒に活動（授業、体育祭、宿泊行事等）することは楽しいですか。



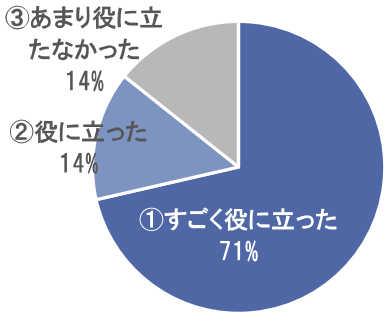
①大変楽しい	４人	57%
②楽しい	２人	29%
③あまり楽しくない	０人	0%
④楽しくない	１人	14%

問３　八丈高等学校の生徒と一緒に過ごす時間を増やしたいですか。



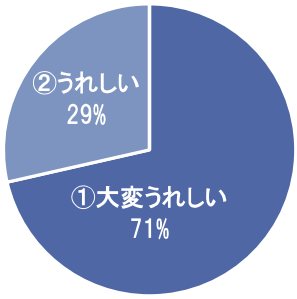
①たくさん増やしたい	４人	57%
②少し増やしたい	２人	29%
③あまり増やしたくない	０人	0%
④増やしたくない	１人	14%

問４　八丈島での職場見学や就業体験、産業現場等における実習は自分の将来を考えるときの役に立ちましたか。



①すごく役に立った	５人	71%
②役に立った	１人	14%
③あまり役に立たなかった	１人	14%
④役に立たなかった	０人	0%

問５　八丈島で学習できてうれしいですか。



①大変うれしい	５人	71%
②うれしい	２人	29%
③あまりうれしくない	０人	0%
④うれしくない	０人	0%

考　察

○　八丈分教室での勉強について、ほぼ全員の生徒が楽しいと感じている。

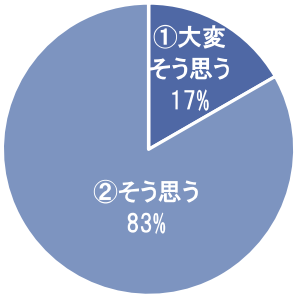
○　八丈高等学校との交流については、ほぼ全員の生徒が楽しいと感じており、交流時間も増やしたいと考えている。

○　将来の就職につながる就業体験等については、ほぼ全員が役に立ったと感じている。

○　生徒全員が八丈島で学習できてうれしいと回答しており、生まれ育った島、自然環境の良い島で学習できることに満足していることが伺える。

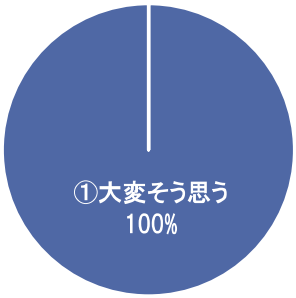
Ⅱ　八丈分教室生徒保護者アンケート調査結果（回答６人）

問１　八丈分教室の学習は、お子様の教育的ニーズに応じた内容だと思いますか。



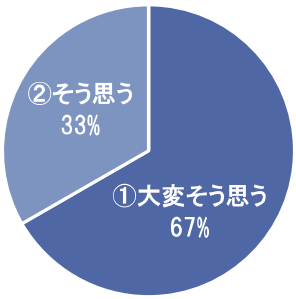
①大変そう思う	１人	17%
②そう思う	５人	83%
③あまり思わない	０人	0%
④思わない	０人	0%

問２　（以前から島内に住まれていた方への質問）
島外の寄宿舎に入ることと比べ、島内に八丈分教室ができたことは、ご自身の負担軽減につながりましたか。



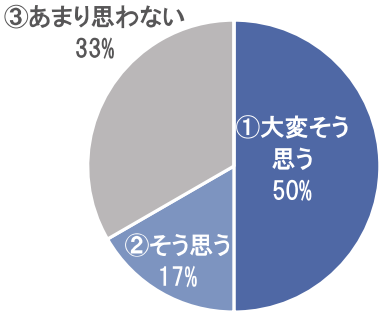
①大変そう思う	３人	100%
②そう思う	０人	0%
③あまり思わない	０人	0%
④思わない	０人	0%

問３　（島外から移住された方への質問）
八丈島に分教室ができたことが、離島への転居を検討する際の決め手の一つとなりましたか。



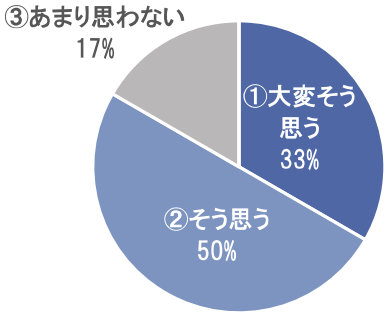
①大変そう思う	２人	67%
②そう思う	１人	33%
③あまり思わない	０人	0%
④思わない	０人	0%

問４　八丈分教室は、島内の同世代の友人とのつながりを強めるための学校生活となっていると思いますか。



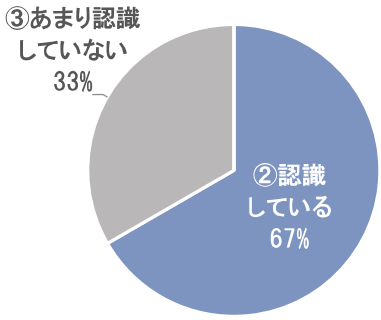
①大変そう思う	３人	50%
②そう思う	１人	17%
③あまり思わない	２人	33%
④思わない	０人	0%

問５　八丈分教室での進路指導は、お子様の将来を考える上で役に立っていると思いますか。



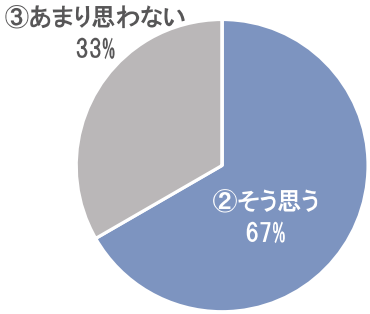
①大変そう思う	２人	33%
②そう思う	３人	50%
③あまり思わない	１人	17%
④思わない	０人	0%

問６　八丈島に八丈分教室があることを、島内の人は認識していると思いますか。



①十分認識している	０人	0%
②認識している	４人	67%
③あまり認識していない	２人	33%
④認識していない	０人	0%

問７　八丈島に八丈分教室が設置されたことで、島内の人々の障害に対する理解が進んだと思いますか。



①大変そう思う	０人	0%
②そう思う	４人	67%
③あまり思わない	２人	33%
④思わない	０人	0%

問８　その他、八丈分教室に対してご意見等がありましたらご記載ください。
（主な意見）

- 島内で学習や仕事に関する経験が積める事はとても有り難い。
- 島内の色々な行事に生徒、教員、保護者が参加することで八丈分教室を知ってもらえると思う。
- 八丈分教室は少人数のため、八丈高等学校の生徒と共にイベント等が実施できると集団行動が身に付き同時に交流も深まる。
- 格技棟だけでなく教室棟と管理棟をより多く活用できると生徒のモチベーションが上がるとともに刺激になり、成長につながる。
- 八丈分教室の特性から島でできるタスクも素敵だが、沢山のミッションを与えて色々な経験をさせたい。

考　察

○　保護者全員が、八丈分教室での学習が子供の教育的ニーズに応じた内容になっていると感じている。

○　島内に八丈分教室が設置されたことは、保護者の負担軽減に大きくつながっている。

○　八丈分教室の設置が島への移住のきっかけとなっている。

○　同世代とのつながりの面では、約７割の保護者がその効果を感じている。

○　一方で約３割の保護者は同世代とのつながりがあまり強まっていないと回答している。これは、コロナ禍の特殊な環境下で両校の交流活動が想定よりも制限されたことが影響していると考えられる。今後は八丈高等

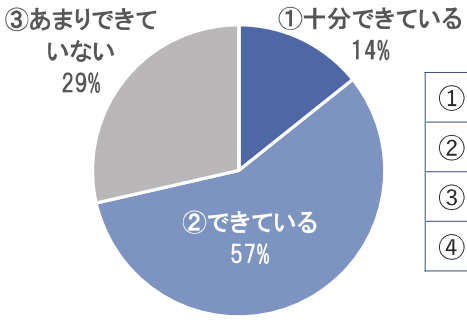
学校との交流・連携についてより綿密な実施計画が求められる。

○　進路指導の面ではほぼ全員の保護者が役に立っていると感じている。

○　八丈分教室の認知度や障害に対する理解の面では、約７割の保護者においてはその効果を感じているが、残り３割の保護者からはあまり効果が感じられていないとの回答であった。この質問は間接的な印象を尋ねていることに注意が必要ではあるが、八丈分教室の効果的な PR は引き続き必要である。

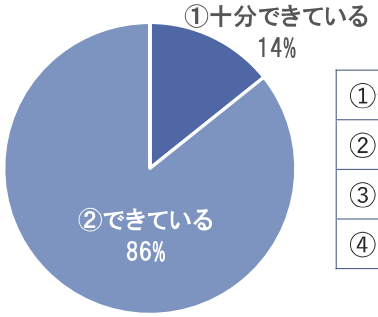
Ⅲ　八丈分教室教員アンケート調査結果（回答７人）

問１　八丈分教室では生徒のニーズに沿った教育ができているとお考えですか。



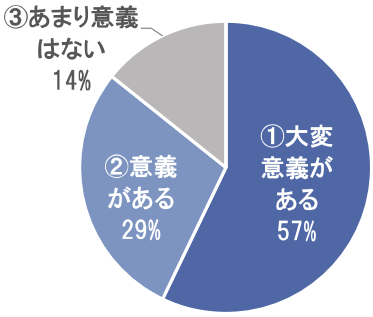
①十分できている	１人	14%
②できている	４人	57%
③あまりできていない	２人	29%
④できていない	０人	0%

問２　八丈分教室の生徒と八丈高等学校の生徒の交流活動（内容や回数、頻度）は十分できていると思いますか。



①十分できている	１人	14%
②できている	６人	86%
③あまりできていない	０人	0%
④できていない	０人	0%

問３　八丈分教室の生徒にとって八丈高等学校の生徒との交流は、教育上意義のあるものだと思いますか。



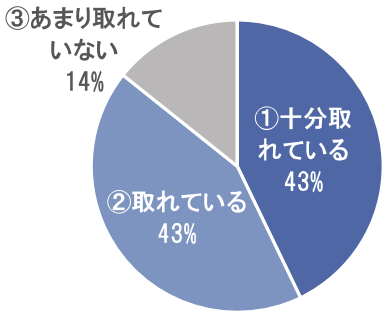
①大変意義がある	４人	57%
②意義がある	２人	29%
③あまり意義はない	１人	14%
④意義はない	０人	0%

問４　問３に関連して、どのような教育上の意義があると思いますか。

（主な意見）

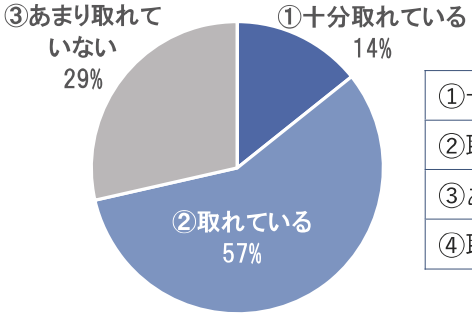
- 「あの先輩のようになりたい」と、交流の中でモデルになる生徒に出会い、それが実際に生活や学習の励みになっている。特に体育祭では、応援してもらったり励まされたりすることが「がんばろう」という原動力や自信につながっている。
- 多様性の尊重が求められる今とこれからの社会において、八丈高等学校の生徒と八丈分教室の生徒が日々の学校生活上で関わり合うことは、両校の生徒にとって多くの良い刺激がある。一例だが八丈高等学校の生徒は合理的配慮や、障害のある人への接し方や理解を深められ、八丈分教室の生徒は適切な支援の下、八丈高等学校の生徒や教員と授業や行事を一緒に行うことができる。インクルーシブな教育の実現・充実を目指すには理想的な環境であると考える。
- 生徒たちにとって、相互理解や共生社会への意識を高めることができている。
- 同じ地域に住む同年代の生徒との関わりがあり、共生社会の実現が図られている。
- 障害の有無を問わず、同年代との関わりが少ない八丈分教室の生徒にとって有意義であると思う。
- 集団の中で、協力し合う気持ちや自分を表現する力が育っている。

問５　八丈分教室と八丈高等学校の教員は十分な連携が取れていると思いますか。



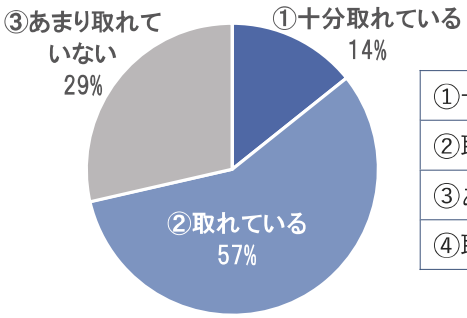
①十分取れている	３人	43%
②取れている	３人	43%
③あまり取れていない	１人	14%
④取れていない	０人	0%

問６　八丈分教室と本校の青鳥特別支援学校とは十分な連携が取れていると思いますか。



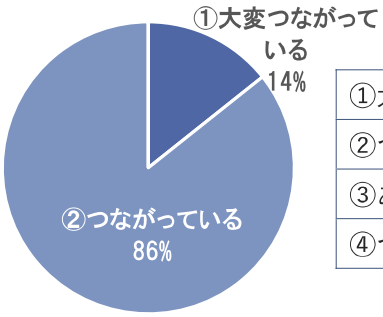
①十分取れている	1 人	14%
②取れている	4 人	57%
③あまり取れていない	2 人	29%
④取れていない	0 人	0%

問７　八丈分教室と島内の役場や支庁等関係機関とは十分な連携が取れていると思いますか。



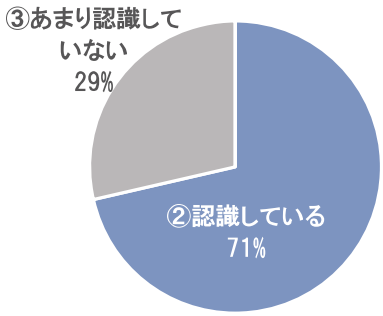
①十分取れている	1 人	14%
②取れている	4 人	57%
③あまり取れていない	2 人	29%
④取れていない	0 人	0%

問８　就業体験や産業現場等における実習は生徒の進路先の拡大や充実につながっていると思いますか。



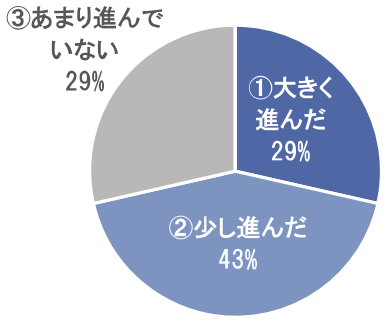
①大変つながっている	1 人	14%
②つながっている	6 人	86%
③あまりつながっていない	0 人	0%
④つながっていない	0 人	0%

問 9　八丈島に八丈分教室があることを、島内の人は認識していると思いますか。



①十分認識している	0 人	0%
②認識している	5 人	71%
③あまり認識していない	2 人	29%
④認識していない	0 人	0%

問 10　八丈島に八丈分教室が設置されたことで、島内の人々の障害に対する理解が進んだと思いますか。



①大きく進んだ	2 人	29%
②少し進んだ	3 人	43%
③あまり進んでいない	2 人	29%
④進んでいない	0 人	0%

問 11　離島の分教室での教育について、内地と比べ良い点、または難しい点を教えてください。（主な意見）

〈良い点〉

- 自然豊かな環境で伸び伸びと学習できる。
- 少人数なので、丁寧な指導、個に応じた指導ができる。
- 八丈高等学校と連携して行事ができる。
- 島民と協力して教育活動ができる（作業販売等）。
- 高等学校の中に学校があるため、八丈高等学校の生徒と顔を合わせ、関わる機会が多い。
- 柔軟な教育活動を計画できる。
- 教えたことのない教科を担当することも多いが、八丈高等学校の専科の教員の連携を得て、教材開発や授業展開ができている。

〈難しい点〉

- 開拓中であるが通所先や就労先が少ない。
- 障害者雇用に関して、島内の企業や公共機関の理解促進については、今後も課題と感じる。
- 就労移行支援の事業所がないため、軽度の知的障害の生徒の進路選択が限られてくる。
- 福祉サービスが行き届いていないところがあるので、学校と家庭以外での居場所が少ない。
- 専門家との連携を持ちにくい。言語聴覚士、作業療法士、理学療法士等の専門家との定期的な連携ができると、生徒たちの将来が更に良くなる。
- 島内に特別支援学校の小・中学部がないことで、基礎的な生活力等の土台形成が十分でないことがある。
- 生徒数が少ないため、集団生活で身に付けるべき社会性を育てることが難しい。
- 生徒にとってのロールモデルが少なく、目標とする姿をイメージしにくい。
- 公共交通機関が少なく一人通学が難しい。
- 目が届きすぎて、過保護になりがち。
- 内地の学校と異なる環境で、既成概念にとらわれない発想が求められるため、意欲やバイタリティーがない教員は厳しい。

問 12 その他、八丈分教室に対してご意見等ありましたらご記載ください。

（主な意見）

- 末永く八丈分教室が続いていくよう努力していく。
- 専門教科以外を担当する場合があるため、本校の専門教科担当教員から教材や指導について助言がもらえると有り難い。
- 格技棟を教室としているため、風雨時の音が学習の妨げとなることがある。
- 職員室と教室とが離れているため、業務の効率化が図りにくい。

考　察

○　八丈分教室での学習について、多数の教員が生徒のニーズに沿った教育ができているとしている一方で、あまりできていないと感じている教員もいる。これは、コロナ禍といった特殊な環境下で教育活動が制限される場面があったことから、生徒のニーズに十分対応できなかったと感じている教員がいることが考えられる。

○　八丈高等学校との交流については、教員全員が十分な活動ができていると考えている。

○　八丈高等学校の生徒との交流の意義については、多様性の尊重や共生社会の実現、インクルーシブな教育の視点からの声が多く挙げられた。また、集団学習の効果に触れる意見もあった。

○　八丈高等学校や八丈町役場等の関係機関との連携については、ほとんどの教員が十分取れていると回答する一方で、あまり取れていないと感じている教員もいる。対外的な調整は副校長が主として担っているが、八丈分教室全体としても関係機関との連携の強化が求められる。

○　就業体験や産業現場等における実習に関して、教員全員が生徒の進路先の拡大や充実につながっていると考えている。

○　八丈分教室の認知度や障害に対する理解の面では、約 7 割の教員が効果を感じているが、あまり効果が見られないと考えている教員もいる。いずれも間接的な印象ではあるが、八丈分教室の効果的な PR は引き続き必要である。

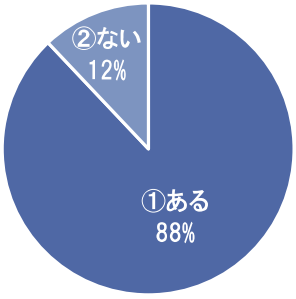
○　離島ならではの教育の良さについては、自然環境の良さと個に応じた丁寧な指導、柔軟な教育活動等が挙げられている。

○　一方で、離島であることの難しい点としては、通所先や就労先の少なさが多く指摘され、課題として捉えられている。企業就労のみならず、福祉就労やオンラインを活用した就労等、多様な就労形態を関係機関とも連携しながら引き続き検討していく。

○　自由意見としては、施設面での要望等が挙げられている。今後、両校の週時程を調整しながら、八丈高等学校教室棟の使用回数を増やす工夫等を検討していくことが大切である。

Ⅳ　八丈高等学校（全日制）生徒アンケート調査結果（回答 108 人）

問１　八丈分教室の生徒と一緒に活動（授業、体育祭、宿泊行事等）をしたことがありますか。

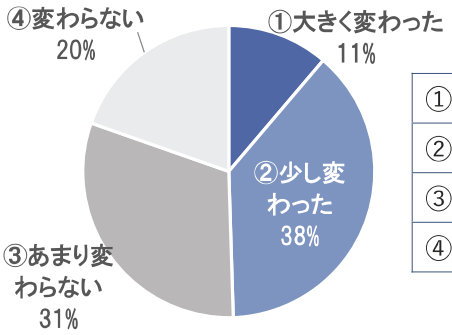


①ある	95 人	88%
②ない	13 人	12%

問２　「ある」と答えた人で、一緒に活動したことで、特に記憶に残っていることは何ですか。（主な意見）

- 体育祭でとても楽しそうに踊っていたこと、同じチームで取り組んだこと、一緒にテントの準備をしたことなど体育祭関連（63 人）
- 授業でサーターアンダギーとタコライスを一緒に作ったこと。
- 書道の授業で作品を作ったこと。
- １年生の頃のオリエンテーションで楽しそうに活動していたこと。
- 校外学習で興味を持つものの違いにより新しい発見ができたこと。
- 八丈高等学校の生徒と一緒に楽しそうにしていて嬉しかった。
- 文化祭（八高祭）
- 修学旅行
- 宿泊防災
- 茶道部
- フリスビー
- ボッチャ
- 学校見学

問３　八丈分教室が設置されたことによって、障害に対する意識が以前と比べ変化しましたか。

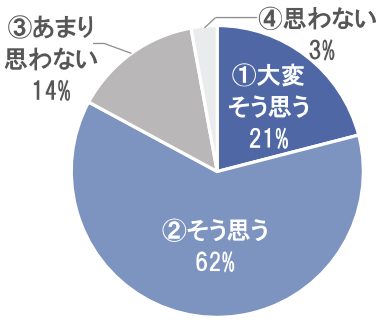


①大きく変わった	12 人	11%
②少し変わった	41 人	38%
③あまり変わらない	33 人	31%
④変わらない	21 人	20%

問４　八丈分教室の生徒とは今後どのような交流をしたいと思いますか。
（主な意見）

- 八丈分教室の生徒が安心してできる交流を増やしていくといい。
- 八丈分教室の生徒がやりやすいもので交流したい。
- 障害がある人とでも一緒に楽しめるような交流が沢山できるといい。
- 互いに楽しめるような活動をして、理解を深め交流していきたい。
- 観察等多角的な視点が必要な授業での交流
- 体育祭や文化祭（八高祭）等の行事
- 校外学習や交流会
- 普段の授業
- 特別な授業のときに一緒に受ける。
- 茶道部と交流したい。
- 園芸のデザイン(押し花等)をやってみたい。
- 行事等でたくさん交流したい。

問５　八丈高等学校に八丈分教室が設置されて、良かったと思いますか。



①大変そう思う	22 人	21%
②そう思う	65 人	62%
③あまり思わない	15 人	14%
④思わない	3 人	3%

考　察

○　八丈高等学校の生徒約９割が八丈分教室の生徒と一緒に活動したことを認識しており、特に印象に残っている活動として 63 人の生徒が体育祭を挙げている。一緒に準備をしたこと、同じチームとして力を合わせたこと、楽しく踊ったことなどが好意的な意見として多く寄せられた。

○　八丈分教室が設置されたことによる障害に対する意識の変化については、約半数が変わったと答えているが、残りの半数はあまり変わらない又は変わらないとの意見であった。これは、従来から島内にある障害者支援施設の認知度が高く、日常的な交流を通じて既に障害に対する理解を身に付けているため、意識は変わらないと回答したことも考えられる。

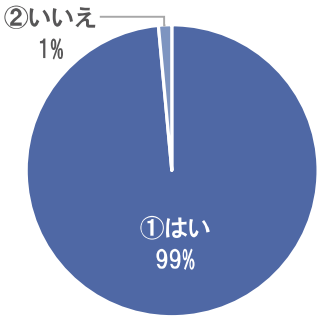
○　今後どのような交流をしたいかという問いに対し、八丈分教室の生徒が安心してできる交流、一緒に楽しめるような交流、互いに理解の深まる交流等、八丈分教室の生徒を思いやった回答が多数見受けられた。

○　八丈高等学校内に八丈分教室が設置されたことについては、８割を超える生徒が良かったと感じており、両校の交流について大きな成果を見て取ることができた。

○　なお、２割弱の生徒が八丈高等学校に八丈分教室が設置されたことをあまり良く思わない又は思わないと回答している。一部には八丈分教室の生徒と一緒に活動したことはないと回答している生徒もいることから、今後はより多くの八丈高等学校の生徒と交流できる活動を考え、共生社会や多様性への理解を学校全体として深めていくことが重要である。

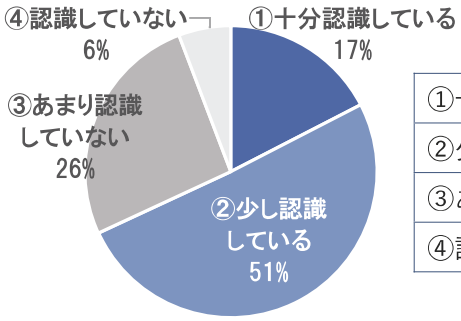
V　八丈高等学校（全日制）生徒保護者アンケート調査結果（回答 70 人）

問１　貴校に特別支援学校の分教室が設置されたことをご存じですか。



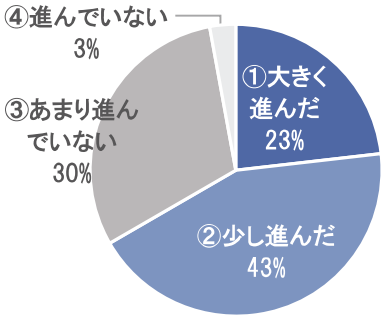
①はい	69 人	99%
②いいえ	1 人	1%

問２　八丈島に八丈分教室があることを、島内の人は認識していると思いますか。



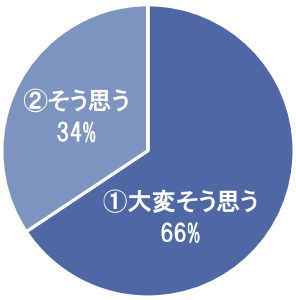
①十分認識している	12 人	17%
②少し認識している	36 人	51%
③あまり認識していない	18 人	26%
④認識していない	4 人	6%

問３　八丈島に八丈分教室が設置されたことで、島内の人々の障害に対する理解が進んだと思いますか。



①大きく進んだ	16 人	23%
②少し進んだ	30 人	43%
③あまり進んでいない	21 人	30%
④進んでいない	2 人	3%

問４　問１で「はい」と答えた方で、八丈高等学校内に八丈分教室が設置されたことは良かったと思いますか。



①大変そう思う	44 人	66%
②そう思う	23 人	34%
③あまり思わない	0 人	0%
④思わない	0 人	0%

問５　その他、八丈分教室に対してご意見等がありましたらご記載ください。
（主な意見）

- モデル事業とはいえ、設置されると聞いたときはとても喜んだ。中学卒業後、親元を離れずに学校に通えることは島しょ地域にとって画期的なことである。
- 今まで障害のある子で高等学校に進学したい場合、八丈島から離れなければならなかった。そのためには親元から離れる事は必然で、実現が難しかったり、将来への選択肢が少なかったりしたと思う。八丈分教室ができたことで、子供たちや保護者の未来が拓けたように感じる。障害のある子供たちが、八丈島でも高等学校へ進学できる環境を保ち続けて欲しい。
- 八丈高等学校内に設置されたことで、同世代の子供の保護者の理解が進んだことが大きかった。今後も双方の学校間と、保護者間も含めて理解を深め、遠慮なく語り合っていく姿勢でいけたらと思う。そのことが地域に根ざすことにつながる。
- 体育祭が合同でできてよかった。格技棟に飾ってある作品も素敵だと思う。
- 障害のある生徒の選択肢が広がったことは今後の八丈島にとって大きな成果だと思う。
- 現在の社会において、障害のある人との交流もさることながら、障害のある人から学ぶ事も多く、八丈高等学校の生徒の大きな財産になっていると思う。八丈分教室の大きな意味を感じる。八丈島からの発信で各地に分教室ができることを期待する。

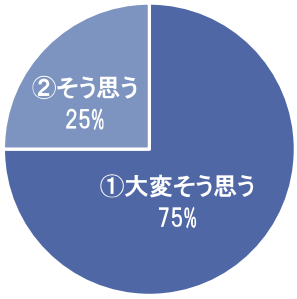
・ 子供には保育園から一緒に過ごしている友達がいて、今は小学校の特別支援学級に通っている。中学校は離れるが、高等学校で再会できる楽しみが増える。何よりも島に八丈分教室があるおかげで兄弟や家族がバラバラにならずに過ごせる事が一番良い事だと思う。
・ 障害のある子はもちろん、その家族にも夢と希望ができ、嬉しい事だと思う。
・ 普段なかなか生徒の学校生活を見られないので、運動会等で協力しながら活動している姿を見る事ができることは良いことだと思う。
・ 体育祭のとき、八丈高等学校の生徒が教えながら整列や体操をしていた。島民にはもっと生徒たちの交流を見てもらいたい。すばらしいことである。
・ 体育祭のとき、リレーだけは別枠での参加にしてあげないと全日制の生徒が頑張りきれないと感じた。文化祭等は一緒でいい。一生懸命学校生活を楽しんでもらえればと応援している。
・ 八丈分教室があるのは大賛成だが、体育祭で八丈高等学校の生徒と一緒に得点に関わる競技に出るのは違うと思う。八丈高等学校の生徒の事も尊重して欲しい。

考　察

○ 八丈分教室の認知度や障害に対する理解の面では約７割の保護者が効果を感じている一方で、約３割の保護者はあまり効果を感じていないとの回答であった。今後更に島民に広く認知されるよう、八丈分教室の PR は引き続き必要である。
○ 八丈高等学校内に八丈分教室が設置されたことは、全ての保護者が良かったと感じている。
○ 自由意見では、八丈分教室ができたことによる好意的な意見が多く、障害のある生徒の選択肢が増えたことや、島内で一緒に暮らせること、保護者の負担が軽減されたことなどが挙げられている。
○ また、八丈高等学校の生徒が八丈分教室の生徒から学ぶことが多いことも示されていることから、両校の交流が共生社会の実現に向けた教育につながっていると考えることができる。
○ 体育祭については、八丈高等学校側の負担とならないよう、合同実施する競技を慎重に選択することが大切である。

Ⅵ　八丈高等学校教員アンケート調査結果（回答 40 人）

問１　八丈高等学校の生徒にとって八丈分教室の生徒との交流は、教育上意義のあるものだと思いますか。



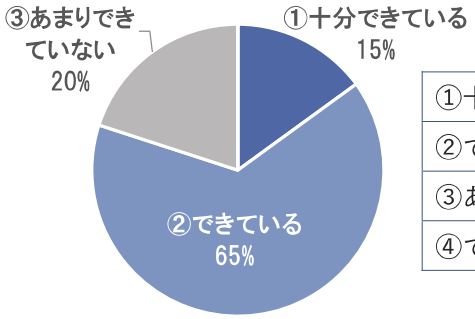
①大変そう思う	30 人	75%
②そう思う	10 人	25%
③あまり思わない	0 人	0%
④思わない	0 人	0%

問２　問１に関連して、どのような教育上の意義があると思いますか。
（主な意見）

- 活動を見ていると、八丈高等学校の生徒が積極的に声掛けをしたりフォローに努めたりするなど、自主的にサポートする姿が見受けられ、助けが必要な人への思いやりの心が培われているように感じられた。また、八丈分教室の生徒は八丈高等学校の生徒に刺激を受けて積極的に活動に取り組む姿が見受けられ、良い化学反応が起きていると思う。
- 周囲の人と助け合ったり、互いの特性に理解を深めたりすることができると思う。八丈高等学校の生徒にとって自然な形でインクルーシブな教育ができている。
- 体育祭の競技について生徒の配慮や工夫が見られ、多様性の理解や「優しさ」を育んでいると思う。インクルーシブな教育として意義深い。
- 社会が共生社会化していく中で、学校でも特別な支援を必要とする生徒と一緒に過ごせることは良い。何か物事を考えるときに特別な支援を必要とする人ならどう思うだろうという視点を持って考えるきっかけとなる。
- ダイバーシティ化には必須のことだと思う。たくさんの個性があるなかでどうやって生活していくかを考えることが一番の持続可能な社会作りであるということは多くの研究成果でも出ている。
- 社会に出た際に、多様性のある生徒への配慮や理解が深まる。
- 多様性を体験的に理解することができる。

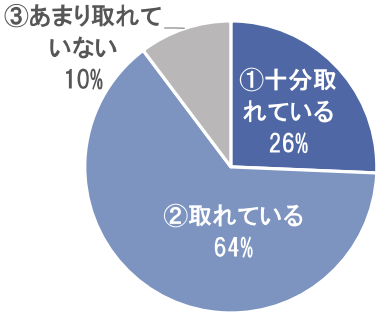
・　様々な生徒が共に学び、多様性を尊重する取組ができていると思う。
・　健常者と障害のある生徒が同じ環境（学び舎）を共有することで互いのことを理解するきっかけとなっている。
・　他者を理解する気持ちや、共にどのように楽しむかなど、生徒の知見が広がったように感じる。
・　日々の交流や行事での協同等を通じて、ノーマライゼーションの意識が養われている。
・　多くの生徒が保育園、小学校、中学校を通して一緒である地域として、上級学校としての交流及び共同学習の取組は、生徒、保護者、そして教職員にとって大変意義のあることだと考える。

問３　八丈分教室の生徒と八丈高等学校の生徒の交流活動（内容や回数、頻度）は十分できていると思いますか。



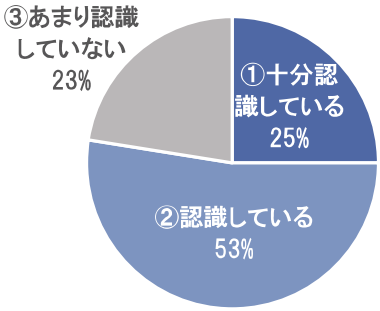
①十分できている	6 人	15%
②できている	26 人	65%
③あまりできていない	8 人	20%
④できていない	0 人	0%

問４　八丈高等学校と八丈分教室の教員は十分な連携が取れていると思いますか。



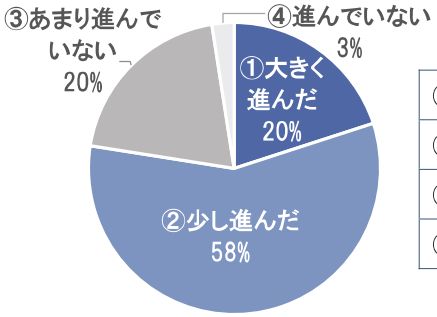
①十分取れている	10 人	26%
②取れている	25 人	64%
③あまり取れていない	4 人	10%
④取れていない	0 人	0%

問５　八丈島に八丈分教室があることを、島内の人は認識していると思いますか。



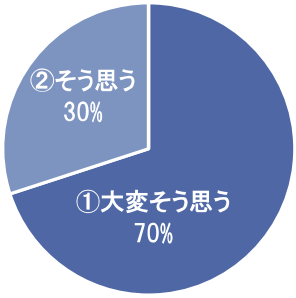
①十分認識している	10 人	25%
②認識している	21 人	53%
③あまり認識していない	9 人	23%
④認識していない	0 人	0%

問６　八丈島に八丈分教室が設置されたことで、島内の人々の障害に対する理解が進んだと思いますか。



①大きく進んだ	8 人	20%
②少し進んだ	23 人	58%
③あまり進んでいない	8 人	20%
④進んでいない	1 人	3%

問７　八丈分教室が八丈高等学校内に設置されたことは良かったと思いますか。



①大変そう思う	28 人	70%
②そう思う	12 人	30%
③あまり思わない	0 人	0%
④思わない	0 人	0%

問８　その他、八丈分教室に対してご意見等がありましたらご記載ください。
（主な意見）

- 八丈島独自の文化に寄り添いながらの生徒対応に敬意を表する。島にとって悲願の分教室なので、末永く継続されることを信じている。
- 本校にとっても、特別支援教育の知識が必要となる場面が増えている印象があるので、そういった際に助言を頂け、助けられている。
- これからも特別支援教育に関することなど、助言を頂きたい。
- モデルケースとして、ほかの島しょ地域にもつながっていくことを期待する。
- １年目から交流に関わっているが、年々交流が良くなっていると感じている。今後更に発展すると思う。
- 自然な形で八丈高等学校と交流の場を設定しており大変好感が持てる。八丈分教室の教員の方々の努力と工夫の賜物だと思う。
- いつもきめ細かな指導をされていてすばらしいと思う。
- 運動や芸術分野の課外活動を活発にして、島外の大会等に積極的に参加すれば、生徒の成長のみならず、八丈分教室の存在を更に島民に周知できる。特に個人種目、個人出展であれば優秀な成績を収められる可能性は十分あると思う。
- 全日制だけでなく、定時制とのコラボ活動があっても良いと思う。活動時間帯が遅くなるので「星空観察会への参加」などから始めたい。
- 八丈分教室の生徒が教室棟にある講義室を使用することは、全日制の生徒にも良い刺激を与えている。これは今後も続けるべきだと思う。
- 現在は格技棟で授業を実施しており、イベント的に交流しているため、八丈高等学校の生徒にとっては特別な交流になっているように感じてしまう。日常においてもう少し近くにいれば理解が深まると思うため、校舎を改築し日常から触れ合う機会を作れると、将来的に更にダイバーシティへの理解が深まるのではないかと思う。

考　察

○　八丈高等学校の教員全員が八丈分教室との交流に教育上の意義を感じている。

○　具体的な教育上の意義としては、多様性や共生社会の理解促進、ノーマライゼーションの意識醸成といった意見が多く挙げられている。

○　また、日頃の交流を通じ、八丈高等学校の生徒が自主的に八丈分教室の生徒をサポートする姿が見られるなど、インクルーシブな教育の観点から意義深いとする意見もあった。

○　両校の生徒の交流活動や教員の連携については、８割以上の教員からできている、取れているとの感想であった。

○　一方で、約２割の教員は両校の交流や教員の連携についてあまりできていないと回答している。これは、八丈分教室教員へのアンケート調査と同様、コロナ禍の特殊な環境下で教育活動が制限される場面があったことから、生徒間の交流等が思ったよりできなかったと感じている教員がいることも考えられる。今後は八丈高等学校との交流についてより綿密な実施計画を策定するとともに、日頃からの声掛け等、両校の連携について取組方を工夫していくことが求められる。

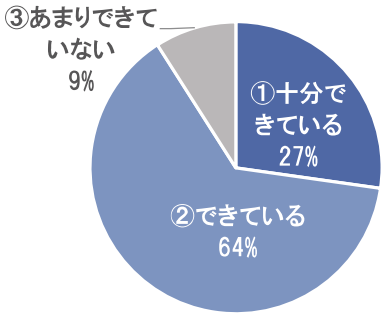
○　八丈分教室の認知度や障害に対する理解の面では約８割の教員が効果を感じているが、残り２割の教員はあまり効果を感じられていないと回答している。間接的な印象である点に注意が必要ではあるが、より多くの島民に八丈分教室を認識してもらうよう、引き続き八丈分教室の効果的なPRは必須である。

○　八丈高等学校内に八丈分教室が設置されたことについては教員全員が良かったと考えており、今後様々な分野での両校の交流が期待される。

○　自由意見としては、八丈高等学校においても特別支援教育の知識が必要となる場面が増えているため、そういった際に助言があり助けられていること、八丈分教室教員の努力や工夫により八丈高等学校との連携が進んでいることなど、八丈分教室教員の取組姿勢に対し、感謝の言葉が多く寄せられている。

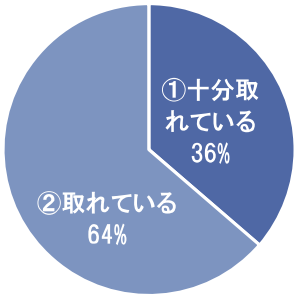
Ⅶ　八丈高等学校経営企画室職員アンケート調査結果（回答 11 人）

問１　八丈分教室の生徒と八丈高等学校の生徒の交流活動（内容や回数、頻度）は十分できていると思いますか。



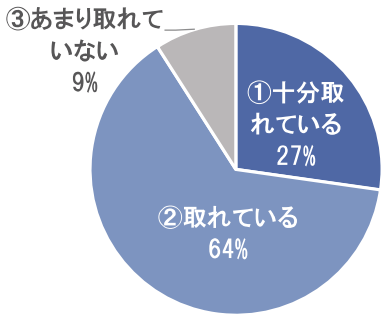
①十分できている	3 人	27%
②できている	7 人	64%
③あまりできていない	1 人	9%
④できていない	0 人	0%

問２　八丈高等学校と八丈分教室の教員は十分な連携が取れていると思いますか。



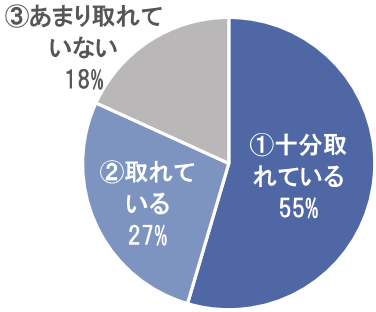
①十分取れている	4 人	36%
②取れている	7 人	64%
③あまり取れていない	0 人	0%
④取れていない	0 人	0%

問３　八丈分教室と本校の青鳥特別支援学校とは十分な連携が取れていると思いますか。



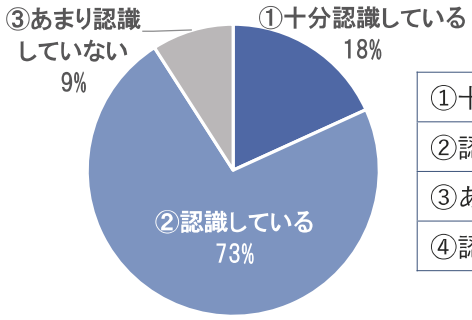
①十分取れている	3 人	27%
②取れている	7 人	64%
③あまり取れていない	1 人	9%
④取れていない	0 人	0%

問４　八丈分教室と島内の役場や支庁等関係機関とは十分な連携が取れていると思いますか。



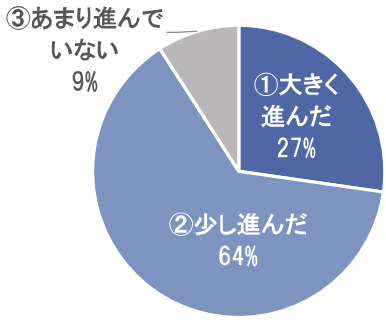
①十分取れている	６人	55%
②取れている	３人	27%
③あまり取れていない	２人	18%
④取れていない	０人	0%

問５　八丈島に八丈分教室があることを、島内の人は認識していると思いますか。



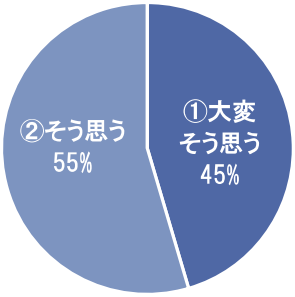
①十分認識している	２人	18%
②認識している	８人	73%
③あまり認識していない	１人	9%
④認識していない	０人	0%

問６　八丈島に八丈分教室が設置されたことで、島内の人々の障害に対する理解が進んだと思いますか。



①大きく進んだ	３人	27%
②少し進んだ	７人	64%
③あまり進んでいない	１人	9%
④進んでいない	０人	0%

問７　八丈分教室が八丈高等学校内に設置されたことは良かったと思いますか。



①大変そう思う	５人	45%
②そう思う	６人	55%
③あまり思わない	０人	0%
④思わない	０人	0%

問８　その他、八丈分教室に対してご意見等がありましたらご記載ください。
（主な意見）

- 支援の必要な子供たちが、中学校を卒業した後、学校から放り出されることなく、自宅近くの特別支援学校高等部の分教室で社会へ出る準備を学べること、八丈島でも都内と同じ教育環境を得られることは、有り難いと思う。
- 生徒だけでなく保護者、教員、島内の人々に理解が深まり、良い影響を及ぼしていると感じている。
- 特別支援学校の高等部は、障害のある児童・生徒が島内で適切な支援を受けて成長していくためには必要な施設であると強く思う。
- 八丈分教室と八丈高等学校の交流の機会については、行事以外の特別清掃等でも一緒に活動ができるのではと思う。

考　察

○　八丈高等学校との交流については、活動内容や教員との連携においてほぼ全ての職員が十分できていると捉えている。

○　本校である青鳥特別支援学校や八丈町役場等の関係機関との連携についても大多数の職員が取れていると考えている。

○　八丈分教室の認知度や障害に対する理解の面では、８割以上の職員が効果を感じている。

○　八丈高等学校内に八丈分教室が設置されたことについては、職員全員が良かったと感じており、学校を支える経営企画室職員にとっても両校の交流は有意義であると考えられている。

（4）調査の総合考察

① 八丈分教室での学習

○ 八丈分教室生徒の約８割が八丈分教室での学習を楽しいと感じており、生徒全員が八丈島で学習できることをうれしいと回答している。また、保護者の全員と多くの八丈分教室教員は生徒の教育的ニーズに応じた学習ができていると考えている。このことから、八丈分教室での学習は生徒の満足度を十分高められていると考えられる。

○ 島内に八丈分教室が設置されたことは、保護者全員が自身の負担軽減につながったと考えており、また、八丈分教室の存在が八丈島への移住のきっかけにもなっていることから、八丈分教室は八丈島にとって重要な存在になっていると言える。

② 八丈高等学校との交流・連携

○ 八丈分教室生徒の約８割が八丈高等学校の生徒と一緒に活動することを楽しいと感じており、八丈分教室生徒保護者からは八丈高等学校との交流・連携により八丈分教室生徒の集団行動が身に付くとの意見があった。

○ 八丈分教室教員の全員、八丈高等学校教員の約８割が両校の生徒の交流活動は十分できていると感じており、両校の教員間の連携に関しても８割以上の教員が取れていると回答している。

○ 両校の交流の意義については、多様性や共生社会への意識を高めること、インクルーシブな教育の充実等が多く挙げられ、日々の交流を通じ両校の生徒がお互い良い刺激を受け成長につながっているという感想からも、高等学校内に分教室を設置した効果が十分発揮されていると考えられる。

○ 集団活動の中で社会性を身に付けていくためにも、八丈高等学校との交流は重要な役割を担っているということができる。

③ 理解啓発の促進

○ 八丈分教室が設置されたことで島内の人々の障害に対する理解が進んだと思いますかの問いに対して、調査対象の約８割の方が理解は進んだと回答している。

○ 八丈分教室との今後の交流について、八丈高等学校の生徒からは、障害がある人とでも一緒に楽しめるような交流、八丈分教室の生徒が安心してできる交流等を希望する声もあり、相互理解の面でも良い影響が出ている。

○　島内の人々の認識度や理解度に対する回答は間接的な印象である点に注意が必要ではあるが、八丈分教室の設置が障害に対する理解促進につながっていることは確かであると言える。

○　なお、八丈島には約30年前から、障害者支援施設として「ちょんこめ作業所」があり、その活動は島民に広く認知されている。そのため、幼い頃から障害に対する理解を持ち合わせており、元来八丈島には特別支援学校の分教室を受け入れる土壌が整備されていたと考えることもできる。

④　八丈分教室の魅力向上

○　八丈島に八丈分教室があることを島内の人は認識していると思いますかの問いに対し、調査対象の約８割の方が認識していると回答している。

○　一方で、八丈分教室をあまり認識していないとする声もあることから、八丈分教室のPRは今後も継続的に進めていく必要がある。

○　八丈高等学校に八丈分教室が設置されたことに関して、約９割の方が良かったと感じており、３年間のモデル事業を通じ、八丈分教室設置の目的や意義が地域に十分理解されたと考えられる。

○　自然豊かな環境での丁寧な教育指導、八丈高等学校との交流を通じた集団学習の確保、共生社会実現に向けた教育等、自由意見では様々な八丈分教室の魅力が挙げられており、今後島内外に八丈分教室をアピールしていく際には、これらの強みを前面に出していくことが有効である。

⑤　島内企業等との連携

○　八丈分教室で実施している就業体験や産業現場等における実習等について、八丈分教室生徒の約８割が役に立ったと感じている。また、ほとんどの保護者にとっても、八丈分教室の進路指導は有効であると考えられている。

○　全ての八丈分教室教員にとっても就業体験等の有効性は感じられているが、一方で就労先が少ない点や障害者雇用についての理解促進に課題があると指摘する意見もあった。

○　島内関係機関、特に八丈町役場や八丈町教育委員会と引き続き連携を強化し、更なる就労先の拡大や、八丈分教室卒業後の生活支援等について検討していく必要がある。

資料２ 八丈町役場へのヒアリング調査

（１）ヒアリング調査概要

八丈分教室生徒の就労や卒業後の日常生活でのフォロー、また、障害者雇用に関する普及啓発については、地元自治体である八丈町役場の協力が不可欠である。そのため、第２回あり方検討委員会において八丈町役場にオブザーバーとして参加していただき、就労支援策や八丈分教室への期待、課題等のヒアリング調査を行った。（八丈町役場対応者：総務課長、福祉健康課長）

（２）ヒアリング調査内容

ア 八丈分教室の認知度について

○ 八丈高等学校と一緒に体育祭や文化祭に取り組んでいることや、島内各所での就業体験等を通じて、多くの島民が認識している。

イ 障害に対する理解促進について

○ 従来から島内にある障害者支援施設ちょんこめ作業所等の認知度が高く、多くの島民がボランティア活動や資源回収、イベント等を通じて、障害のある方々と日常的に接している。そのため、障害に対する理解は進んだ地域ではあるが、八丈分教室の設置により更に理解が進んだと認識している。

ウ 島外からの生徒の受入れについて

○ 八丈町は人口が減少しており、令和５年４月で７千人を下回った。八丈町への移住促進については町として一番の課題と捉えているため、島外からの生徒の受入れについて積極的にバックアップしていきたい。

○ しかしながら、島には学生寮がなく、生徒単身ではホームステイによる受入れも困難のため、保護者と移住していただくことになる。

○ また、離島のため内地と同等の医療サービスや福祉サービスの提供は難しくなる。

○ 住居については、八丈町には 421 戸の町営住宅があり、低所得者の方の利用がメインだが、その中でも障害のある方や世帯の方は優先して入居できる制度がある。

エ　就労支援策について

○　八丈町としても、八丈分教室卒業後の就労については非常に大切な課題であると認識している。

○　島内には就労継続支援 B 型事業所が 2 か所ある。当該事業所に対する軽作業等の業務委託の拡大を進めるなど、連携強化を図っていく。

○　また、島内の民間事業者に対する障害者雇用の勉強会等の開催について、関係部署と協力して検討していく。

○　町の基幹産業である農業を障害者の方の仕事として取り入れ、農業と福祉が連携した農福連携という新しい形の雇用を検討していたが、新型コロナウイルスの関係で講習会等ができなくなり、一旦仕切り直しになっている。今後、農作業体験等の試験的な取組を実施し、システムの構築を進めていく。

○　八丈町役場での雇用について、八丈分教室の生徒には今まで 2 回職業体験に来てもらっている。町としては障害者採用選考や障害者の会計年度任用の実施に向けた検討を進めている。

オ　日常生活でのフォローについて

○　町には現在、障害者支援専門員等の設置はないが、八丈分教室や卒業生個人から日常でのフォローの相談、あるいは障害者支援事業所を通じた支援依頼等があれば、関係機関と連携し、障害福祉サービスに基づいた支援に努めていく。

カ　八丈分教室への期待や課題について

○　八丈分教室については、中学校 PTA 会長をはじめ、中学校まで一緒に学んだ同級生たちと引き続き共に学べるという喜びの声が多数届いている。

○　また、八丈分教室の継続についても、島民から多数の声が寄せられている。

○　その上で、今後 10 年、20 年と継続していくときに、狭い島内において八丈分教室卒業生たちの就労先のキャパシティが飽和状態になってしまうことを課題として捉えている。

○　八丈分教室卒業生の就労先の確保について、障害者雇用の会議等を開催し、島内での障害者理解に対する教育を進めていきたい。

資料３ 八丈町立小・中学校へのヒアリング調査

（１）ヒアリング調査概要

八丈町には、三根小学校、大賀郷小学校及び三原小学校の三つの小学校と、富士中学校、大賀郷中学校及び三原中学校の三つの中学校がある。あり方検討委員会はこのうち、特別支援学級を設置している三根小学校と大賀郷中学校の校長に対し、八丈分教室に関するヒアリング調査を行った。

（２）学校概要（児童・生徒数は令和５年５月１日時点）

八丈町立三根小学校

児童数	通常の学級	167 人
	特別支援学級	
	ひまわり学級（知的障害）	5 人
	たんぽぽ学級（肢体不自由）	1 人
	合　計	173 人

八丈町立大賀郷中学校

生徒数	通常の学級	40 人
	特別支援学級	
	桃組（知的障害）	6 人
	桜組（自閉症・情緒障害）	1 人
	合　計	47 人

（３）ヒアリング調査内容

ア　八丈分教室の認知度について

〈三根小学校〉

○　八丈分教室は町の広報誌等を通じ PR を行っているので、多くの島民が認識していると考えている。

○　八丈高等学校と日頃から交流や連携が図られており、島民にとって良いイメージがある。

○　離島せずに高等学校へ進学させられることで、島民は安心感を持っていると考えている。

〈大賀郷中学校〉

○　特別支援学級の生徒の保護者は八丈分教室の説明会等が開催されているため、全員認識している。

○　普段から八丈分教室の教員が生徒を丁寧に指導している姿をよく見かけるため、努力されていることは伝わっている。

○　島内に八丈分教室があることで島民は安心感を持っている。

イ　障害に対する理解促進について

〈三根小学校〉

○　八丈島には以前から社会福祉協議会やちょんこめ作業所の取組が盛んであり、その活動を通して、島民の障害に対する理解は進んでいる。

〈大賀郷中学校〉

○　八丈島では、障害者の就労先としてちょんこめ作業所の活動内容の印象が強く、以前から島全体として障害に対する理解は高い。

ウ　八丈分教室の八丈高等学校内設置について

〈三根小学校〉

○　小学校や中学校に在籍中、交流活動等を行ってきた生徒たちが八丈高等学校や八丈分教室に進学している。学校行事における交流が可能な八丈高等学校内に八丈分教室が設置できたことは良かったと感じている。

〈大賀郷中学校〉

○　八丈高等学校との交流を通じ、今までの生徒たちのつながりが継続できる。非常に良い取組である。

エ　八丈分教室との連携について

〈三根小学校〉

○　説明会や学校公開、教職員研修等を通じ普段から連携している。

○　八丈分教室の教員には、特別支援学級に限らず、通常の学級の児童についても観察をして支援についてアドバイスを頂きたい。

○　今後八丈分教室が、八丈島における特別支援教育のセンター的機能の体制を整えることを期待する。

〈大賀郷中学校〉

○　現状では、進学相談の際に生徒情報等を共有している。

○　大賀郷中学校には特別支援学校への就学が適当な子から障害の程度が軽い子まで在籍しており、チームで対応することの難しさがある。ぜひ八丈分教室の教員には引き続き御支援をお願いしたい。

○　八丈分教室の教育課程に本校である青鳥特別支援学校の職能開発科のプログラムを取り入れることで、職能開発科を希望する生徒も島を離れることなく八丈分教室で学ぶことができると考えている。

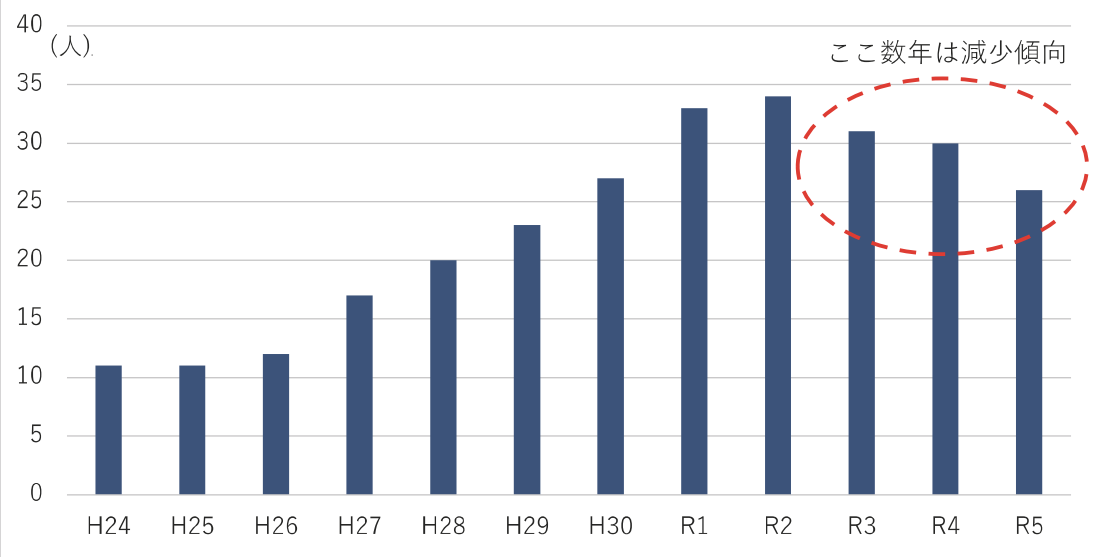
資料４　島しょ地域の知的障害特別支援学級　在籍者の状況

表１　島しょ地域の知的障害特別支援学級　在籍者数　（単位：人）

令和５年 ５月１日時点	小学校						中学校			総計
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	
大島町	0	0	1	0	2	1	0	0	1	5
利島村										
新島村	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
神津島村	0	0	0	0	1	2	0	0	0	3
三宅村	0	0	2	0	1	0	0	0	0	3
御蔵島村										
八丈町	**0**	**1**	**0**	**0**	**2**	**2**	**1**	**1**	**4**	**11**
青ヶ島村										
小笠原村	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2
計	0	1	4	0	6	6	1	3	5	26

（※）利島村、御蔵島村及び青ヶ島村の小・中学校には特別支援学級が設置されていないため未計上

表２　島しょ地域の知的障害特別支援学級　在籍者数の年度推移



資料５ 八丈町の知的障害特別支援学級 在籍者の状況

表１ 八丈町の出生年度別知的障害特別支援学級 在籍者数　（単位：人）

出生年度	小1時	小2時	小3時	小4時	小5時	小6時	中1時	中2時	中3時	増数(※)
H14	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
H15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H16	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
H17	0	0	0	0	2	2	3	3	3	3
H18	1	1	2	2	2	2	4	4	3	2
H19	1	1	1	1	2	2	2	2	2	1
H20	1	1	3	3	3	4	4	4	4	3
H21	0	0	0	1	1	1	1	1		
H22	1	1	2	1	1	1	1			
H23	2	2	2	2	2	2				
H24	1	2	2	2	2					
H25	0	0	0	0						
H26	0	0	0							
H27	1	1								
H28	0									
平均人数	**0.53**	**0.64**	**0.92**	**1.00**	**1.36**	**1.40**	**1.67**	**1.75**	**2.00**	**1.57**

（※）増数は「中３時の在籍者数」から「小１時の在籍者数」を引いた数

表２ 八丈町の知的障害特別支援学級 在籍者数　（単位：人）

令和５年５月１日時点	小学校						中学校			総計
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	
八丈町	0	1	0	0	2	2	1	1	4	11

○ 表１の平均人数を見ると、学年が上がるにつれ特別支援学級の在籍者数が増えていく傾向が読み取れる。
○ 特に、H17 と H20 出生児は、小１時と比べ中３時には３人の増加が見られる。
○ 大島町や三宅村等においても、母数は少ないが学年が上がると在籍者数が増える傾向は見られる。
○ 表２から、令和５年５月１日時点では八丈町において小学校１年生、３年生及び４年生の在籍者数はいないが、上記傾向を踏まえると今後出現する可能性は高い。

資料６　島しょ地域における特別支援学校分教室のあり方検討委員会　設置要綱

令和５年６月７日決定
５教学特第760号

（設置）
第１　八丈町における特別支援学校分教室のモデル事業の検証を行うとともに、島しょ地域における特別支援学校分教室のあり方を検討するため、島しょ地域における特別支援学校分教室のあり方検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（所管事項）
第２　委員会は、次に掲げる事項について検討及び協議を行う。
（１）青鳥特別支援学校八丈分教室における取組内容に関する事項
（２）島しょ地域における特別支援学校分教室の設置に関する事項
（３）その他必要な事項

（構成）
第３　委員会は、東京都教育庁（以下「教育庁」という。）関係者、東京都立特別支援学校関係者、学識経験者等のうちから、教育長が任命及び委嘱する者をもって構成する。

（委員長等）
第４　委員会に委員長を置き、教育庁特別支援教育推進担当部長の職にある者をもって充てる。
２　委員長は、委員会を主宰し、会務を総括する。
３　委員会に副委員長を置き、教育庁都立学校教育部特別支援学校改革推進担当課長の職にある者をもって充てる。
４　副委員長は、委員長を補佐し、委員長が不在のときは、その職務を代理する。

（設置期間）
第５　委員会の設置期間は、設置された日から令和６年３月31日までとする。

（作業部会）
第６　委員会の検討事項の整理、その他委員長から指示のあった事項を処理するため、必要に応じて作業部会を置くことができる。

（意見聴取）
第７　委員会は、必要に応じて、関係者の出席を求め、意見を聴取することができる。

（会議及び会議資料等）
第８　委員会の会議及び会議資料等は、原則として非公開とする。

（庶務）
第９　委員会の庶務は、教育庁都立学校教育部特別支援教育課が担当する。

（その他）
第１０　本要綱に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が定める。

附　則
この要綱は、令和５年６月７日から施行する。

資料７ 島しょ地域における特別支援学校分教室のあり方検討委員会 委員名簿

	氏　名	所　属	備　考
学識経験者	橋本　創一	東京学芸大学 特別支援教育・教育臨床サポートセンター教授	
	涌井　恵	白百合女子大学 人間総合学部発達心理学科准教授	
東京都教育庁	落合　真人	特別支援教育推進担当部長	委員長
	大村　公洋	都立学校教育部特別支援学校改革推進担当課長	副委員長
	臼井　宏一	都立学校教育部高等学校教育課長	
	鞠子　雄志	都立学校教育部特別支援教育課長	
	深谷　純一	都立学校教育部主任指導主事 （特別支援教育推進担当）	
	中村　大介	指導部特別支援教育指導課長	
	西岡　陽子	指導部主任指導主事 （特別支援教育担当）	
	奥富　洋一	人事部人事計画課長	
学校関係者	諏訪　肇	東京都立青鳥特別支援学校長	
	佐藤　俊一	東京都立八丈高等学校長	
	小榮　崇裕	東京都立青鳥特別支援学校副校長 （八丈分教室担当）	

島しょ地域における特別支援学校分教室のあり方検討委員会 報告書

東京都教育委員会印刷物登録
令和５年度 第89号

令和６年１月発行
編集・発行 東京都教育庁都立学校教育部特別支援教育課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
電 話 番 号 03-5320-6762

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。